

11月こども園だより

令和2年10月30日 川辺町第1こども園

園庭の木々の紅葉は、秋の足音を数えるように変化しています。

自然探しに散歩へ出かける事が増えました。散歩ではどんぐりやまつぼっくり拾いに夢中になる子ども達。集めた木の実を宝物のように大事そうに持ち帰る姿がとても可愛らしく印象的です。秋見つけをして、子ども達が持ち帰る土産話にもぜひ耳を傾けてみて下さい。きっと目をキラキラさせて、たくさんの楽しいお話を聞かせてくれることでしょう。



運動会がんばりました！！



運動会を終えてはや数日が経ちました。今年初めての保護者の方を招いての行事。緊張する子もいましたが、「見てもらえる！」という、期待の方がきっと高かったのではないのでしょうか。

同じ目標に向かい取り組んだり、勝ち負けを競いあったりと様々な経験をしてきたことでクラスの”仲間”という意識がより一層強くなったように思います。これからも友達の大切さや仲間がいることの心強さ、喜びなどを園生活を通して学べるような活動をしていきたいです。

「かんしゃく」を起こしたら、どうすると良い？

かんしゃくというのは、自分の思うようにならないと激しく泣いたり、わめいたり、引っこ返ったり、手足をばたばたさせたりすることです。かんしゃくを見ると、「すぐ感情的になる」「わがまま」と思ってしまうがちですが、子どもが成長する過程で、どうしても通らなければならないものなのです。子どもの心がそこまで自己主張できるくらい育ってきた証拠で、喜ぶべきことなのです。大切なことは、「わがまま」「悪い子」と決めつけて叱ったり、子どもの言いなりになるのではなく、子どもの気持ちを酌んであげることです。それをすることで少しずつかんしゃくが収まってきます。

お母さんやお父さんに大切にされているという心の安心も生まれます。人の気持ちを酌むという、「思いやり」が育つ土台にもなります。

『子育てハッピーアドバイス』より

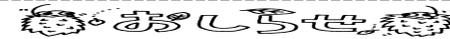


11月の行事

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 ・遠足	5 ・交通安全指導	6 ・青空給食	7
8	9	10	11 ・サッカー教室 (年長)	12 ・大火災 避難訓練	13 ・誕生会① ・療育指導	14
15	16	17	18 ・身体測定	19	20 ・誕生日会②	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

～あいさつ～

毎朝門の所に立っている職員に「おはようございます！」と、挨拶してくれる子どもの姿がとても増えたように感じます。朝から元気に挨拶ができると、挨拶をした側もされた側とても心が爽やかで気持ちよく1日が始まるように感じます。そんな嬉しい気持ちにしてくれる挨拶を子どもだけでなく大人も互いにできたらもっと素敵でしょうね。みんな同じ第1こども園の仲間です。話した事がない人、あまりみかけない顔の保護者の方もいるとは思いますが、少しだけ恥ずかしさや面倒くささを捨てて、気軽に挨拶がし合える、そんな素敵な園をみんなで作っていききたいですね！



◎夕方随分暗くなりました。夕方5時以降は外で遊ばないようにしましょう。1人で遊んでいる子がいましたら、帰るよう声をかけて頂き、地域での見守りをしていきましょう。

◎朝8:30前に登園される場合は必ず保護者の方が各クラスの玄関までお子さんを送ってきて下さい。年少以上児は門当番が立ちましたら、門からお子さんだけで玄関へ行きますのでお願いします。

◎るくみーの2回目の販売は7, 8, 9, 10月分に変更します。

◎4日(水)は遠足です。お弁当などの準備をお願いします。※おやつは持参して下さい。

◎劇発表会・・・今年度は無観客で行います。詳しくは後日お知らせします。当初予定していました日には発表会はありません。また各クラス練習が始まります。朝は8時50分までに登園できるようにお願いします。

◎行事以外のお子さんの写真撮影はトラブルの原因になります。散歩中や保育中の撮影はお控え下さい。

保育実習から

今年度も保育実習生を受け入れる機会があり、先日、部分実習を年中組で実践してもらいました。

予め指導案を見せてもらい、年齢に合った活動か？子ども達が自ら考え楽しく取り組めるものか？子どもが心を動かす内容か等を確認し、あとは実習生に自分で判断して指導するよう助言し、実践に望んでもらいます。

活動内容は、「とんぼ製作」・・・順調にスタートし、画用紙を切り、自分で選んだ色で、羽や体の部分を塗り、目を描き、自分だけのとんぼ製作に目を輝かせて取り組んでいました。

完成したら前にいる実習生に名前シールを貼ってもらい、そのまま自分の席に戻るのかと・・・いえいえ戻りません。

「ぶーん。びゅーん」と言いながら片手にとんぼを持ち室内を動き回りました。「園長先生にとーまった！」と私にとんぼをくっつける姿もみられました。どれも予想される姿です。それまでおおむね計画したように実習は進んでいきました。

しかし、最後の最後でハプニングが起こったのです。それは・・・

実習生が「今作ったとんぼを、先生が家に持って帰りたいんだけど」と話しかけると、

「え！どうして？」「おうちへ持って帰りたい。お父さんお母さんに見せたい」と子ども達は訴えたのです。

「先生が家に持って返って、きれいに貼って皆にプレゼントしたいから」と実習生。

言葉だけの説明ではイメージがつかない子ども達は、「えー！持って帰りたい！」と再度訴えました。

中には実習生の思いを察して「いいよ」と言う子もいましたが・・・（相手の身になって思いを感じ取ることができるようになってきつつある姿です）

さあ、実習生はどう判断するのか？私は後ろで見守りました。困った表情をし30秒ほどの沈黙が流れた後、

「そうだね。持って帰りたいよね。じゃあ家に持って返ってお父さんお母さんに見せてあげてね」と実習生が言うと、

「やったー！」と子ども達は素直な思いを表現しました。担任の助言もあり最後は「とんぼのめがね」を歌って実習は終わりました。

私は実習生の傍へ行き「お疲れ様。良い判断ができたね。私も同じように判断したよ。子どもの思いに寄り添ってくれありがとう」と言葉をかけましたら、両手で顔を隠し、わぁ！と泣き出し涙がぽろぽろと・・・

緊張がほぐれたのと、部分実習が終わった安堵感と、そして予想通りにはいかなかった・・・等のさまざまな思いが詰まった涙だったでしょう。

心が澄み、正直な涙に私もぐっときましたし、私もこんなことがあったっけ、若いっていいなと羨ましくも感じました。

実習生をそして大人を悩ませるのが子ども！予想通りにいかないのが実習！予想通りにいかないほうが学びは多く、自分を振り返ることができる！そんなことを実習生は感じてくれたら・・・反省会では「たくさんのことを学んだ」と思いを語ってくれた実習生でした。

私達職員も毎日子どもから多くのことを学んでいます。実習生を受け入れる度に、“初心に帰る”ことができるのです。

それにしても、実習生が涙したとも知らず、無邪気に“とんぼ”を持って遊ぶ子ども達に「あっぱれ！よくぞ、やってくれました」とおもわず、にやりと笑みがこぼれた私でした。

園長